幕藩体制の曲がり角

享保の改革の後、すなわち 18 世紀後半、村・町における貧富の差が拡大し、幕藩体制は大きく動揺した。村 町では争いが急増し、都市部では出稼ぎ目的の流入民が治安悪化を招いた。また、自然災害やそれに伴う大飢 饉も起き、幕政はその対応に追われた。人心はますます不安定になり、民衆運動が増加していった。

〇社会の変容

●村の変容

<田地を収集した百姓>

(⁽²⁾ ・⁽³⁾ ・⁽⁴⁾)を務める有力な百姓は、

困窮する百姓に金を貸し、貸にとった田地を集めて地主に成長した。



地主は、次の2つの耕作形態で田地を経営した。

- ①地主手作…期間を定めて雇った零細な百姓とともに田地を直接経営
- ②零細な百姓に田地を貸し、小作人として経営させて小作料(土地使用料)を徴収

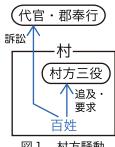
一部の地主は、村において商業行為に、携わり、流通・金融の担い手となった。

⇒このような地主を豪農(在郷商人)と呼ぶ。

<田地を失った百姓>

田地を失った百姓は、雇用されるか小作人となるか、都市部に流出するしかなかった。



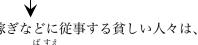


村方騒動

●町の変容

町人地では、自分の宅地と家をもつ者(6) が減少した。 ⇒町人のほとんどが、借地に家を建てる者(7) 家やその一部を借りる者(8)

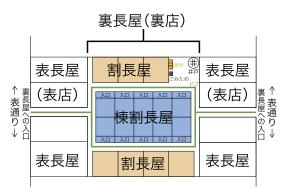
⇒貧しい百姓は、村方三役に不正追及や要求をおこなう運動⁽⁵⁾



農村部からの流入民、日用稼ぎなどに従事する貧しい人々は、 町の裏長屋(裏店)や城下町の場末に多数居住した。

⇒特に貧しい人々は棟割長屋に居住し、

飢饉・災害などの時にはたちまち生活を破壊された。



町人地の住居の簡易モデル 図2

○百姓一揆と打ちこわし

●百姓一揆

幕府や藩の支配が原因で暮らし・生産活動が脅かされた時、

百姓は広範囲で結集して反抗する運動(9)

- ⇒藩の悪政に協力したとみなされた商人や村方三役は打ちこわしにあった。
- ◇団結の意思表示の署名には、首謀者を隠せる(10)



<17世紀初めの百姓一揆>

土豪が中心となり、幕府や藩の支配に武力蜂起や逃散で抵抗した。

- ⇒一揆の担い手には、中世の一揆の名残がまだ見られた。
- ◇土豪…兵農分離の際に村にとどまった、武士層と未分離の有力農民
- ◇中世の一揆…国人・地 借 · 百姓など様々な層が一揆の担い手
- ◇近世の一揆…百姓だけが一揆の担い手

<17世紀後半からの百姓一揆>

村方三役が百姓全体の要求をまとめ、正規の手続きを無視して、

将軍・藩主に直訴する一揆(11) が増えた。

- →直訴した代表者は厳罰に処され、「⁽¹²⁾ 」としてよく伝説化された。
- ⇒ 下総の⁽¹³⁾ や上野の 磔 茂左衛門は、

伝説化された義民として有名である。



図4 17世紀初めの一揆

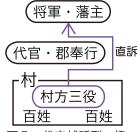


図5 代表越訴型一揆

将軍に直訴した義民―佐倉惣五郎

佐倉惣五郎は、下総佐倉藩の公津村の名主であった。藩主の悪政を役人・幕府の老中に訴えるが聞き入れられず、果てに上野寛永寺に参詣する4代将軍徳川家綱に直訴した。藩主の悪政は改まったが、惣五郎は処刑された。このような惣五郎の伝承が今日も知られる一方で、史資料上では惣五郎の直訴を確認できない。



<17世紀末からの百姓一揆>

武力蜂起を伴う全村民による(14) が各地で起こった。

- →規模が藩全域に及んだ場合、これを全藩一揆と呼ぶ。
- ⇒全藩一揆としては、1686年の信濃松本藩の嘉助騒動、 1738年の陸奥磐城 平 藩の元文一揆が有名である。



破壊行為 藩内の 全ての村

強訴・

図6 惣百姓一揆

図7 全藩一招

•打ちこわし

町人や百姓は、不正を働いたとみなした商人・役人に対して、

その家屋や家財を破壊する行為 $^{(15)}$ _____に及んだ。

⇒百姓一揆では、領主の悪政と結びついた商人・村方三役に対しておこなった。



図8 打ちこわし

く享保期の打ちこわし>

1732 年、天候不順と西日本一帯でのイナゴ・ウンカの大量発生で大凶作となり、 と呼ばれる全国的な飢饉となった。

⇒1733 年、江戸の民衆が米価急騰の原因を有力な米問屋の仕業と考え、 江戸時代最初の打ちこわしが起こった。

◇(16) … 甘藷の有用性が見出され、8代将軍(17) がその栽培を奨励



図9 天明の飢饉

<天明期の打ちこわし>

1782年の冷害、翌年の浅間山の大噴火などが重なり、

(18) ______と呼ばれる東北・関東を中心とした全国的な飢饉となった。

- →全国で百姓一揆、江戸や大坂などで打ちこわしが発生した。
- **⇒田沼意次**は、噴火や飢饉をその政治のせいとされ、やがて失脚した。



図 10 浅間山噴火夜分大焼之